

臨時レポート

ナスダック総合株価指数が6,000ポイント台乗せ

企業の好決算や税制改革に対する期待感等が追い風に

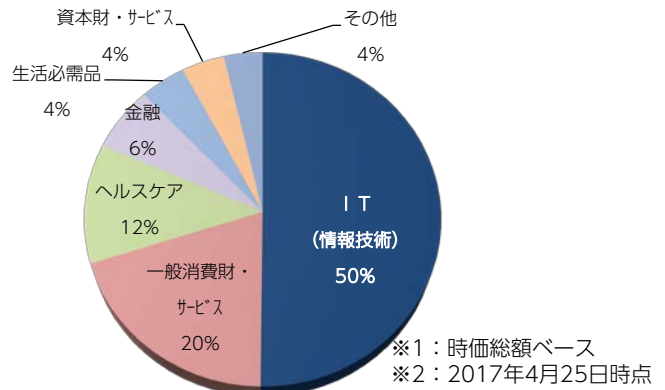
- 4月25日、ナスダック総合株価指数が約17年ぶりに大台替わり。連日史上最高値を更新。
- 好調な業績が期待されるIT（情報技術）関連銘柄をけん引役に、上昇基調が続く可能性も。

- 4月25日、企業の好決算やトランプ政権が掲げる税制改革への期待感等を追い風に米国株式市場の主要指数がそろって上昇しました。IT関連銘柄の比率の高いナスダック総合株価指数は初めて6,000ポイントの大台に乗せ、史上最高値を更新しました。同指数はIT関連銘柄の急騰等を背景に、1999年11月に3,000ポイント台、同年12月に4,000ポイント台、2000年3月には5,000ポイント台と大台を次々と塗り替えました。しかし過熱感が懸念されていた同市場は2000年3月10日をピークに下落基調に転じ、2002年10月に底入れするまで8割近く下落しました（ITバブル崩壊）。その後の回復局面ではリーマン・ショックや欧州債務危機等が6,000ポイントの大台到達を拒み、ITバブル期につけた5,000ポイント台から6,000ポイント台へと大台替わりするのに約17年の歳月を要しました（図表1、2）。
- 同指数がITバブル期の高値を抜いた2015年4月23日から2017年4月25日までの上昇率上位を見ると（金融を除く時価総額上位100銘柄で構成されるナスダック100指数ベース）、AI（人工知能）関連事業などを行うエヌビディア等、IT関連銘柄が上位を占めています（図表3）。
- 足元のナスダック総合株価指数水準は株価収益率（P E R）から判断してITバブル期のような過熱した状態には無いと思われます。米景気回復を背景にIT関連銘柄等の企業業績拡大も期待され、6,000ポイント台に乗せた同指数は新たなステージに入った可能性もあります（図表4）。

図表1：ナスダック総合株価指数推移



図表2：ナスダック総合株価指数セクター別構成比



図表3：上昇率上位10銘柄

順位	銘柄名	上昇率 (%)	業種	時価総額 (億ドル)
1	エヌビディア	383	IT (情報技術)	612
2	網易[ネットイース]	141	IT (情報技術)	360
3	アマゾン・ドット・コム	133	一般消費財・サービス	4,337
4	アクティベーション・ポイント	119	IT (情報技術)	383
5	アイテックスラボラトリーズ	104	ヘルスケア	142
6	ラムリサーチ	95	IT (情報技術)	230
7	アフライト・マテリアルズ	91	IT (情報技術)	437
8	ネットフリックス	91	一般消費財・サービス	620
9	プロードコム	85	IT (情報技術)	888
10	KLAテックニカル	81	IT (情報技術)	158

※特定の銘柄を推奨するものではありません。

※1：ナスダック100指数ベース、2：2015年4月23日～2017年4月25日の上昇率

出所) 図表1はニッセイ基礎研究所、図表2～4はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

図表4：ナスダック総合株価指数P E R 推移



●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会